

元気で暮らそう 家族の健康

幼児が頭を打った時



財団法人関東厚生福祉会

朝霞厚生病院

石本 総一郎 院長先生

まず始めに、九才（小学校低学年）以下のお子さんが頭を打った場合と、脳萎縮の進んだお年寄りが頭を打った場合とは、後々問題となりやすいのはお年寄りの方で、小さい子どもの場合には以外と問題となるのが少ないということを念頭に置いて下さい。

その理由としては

- ① 転倒の際の衝撃が、身長が低いので少ないこと
- ② 脳みそが頭蓋骨いっぱい詰まっております、お年寄りとは違って脳萎縮がないため衝撃の際、脳表の血管の過伸展（伸びすぎる）が起きにくいこと
- ③ 自然の防御反応に従った素直な転び方をするため衝撃が分散されやすいこと

以上が挙げられますが、次のような場合は、脳外科のある病院を受診なさって下さい。

- (甲) 身長の数倍以上の高さ（二メートル以上）から落ちた場合（ただし、ベッドからの転落は、まず心配ありません）
- (乙) 頭を打った後すぐ泣かず寝入ってしまう場合（大声で泣く場合は、まず問題ありません。）
- (丙) 自転車の荷台に乗せられて走行中の自転車が転倒した場合

また、自転車の荷台にお子さんを乗せたまま少しの間でも自転車から離れるのは非常に危険です。たいてい自転車ごとひっくり返ります。

また、様子を観ているだけでも心配になる場合も遠慮なさらず受診して下さい。頭のCTを撮って問題ないことをお話しすると（医者のお診ただけでは安心出来ないようです）たいていのお母さんお父さんはホッとされます。